

聴覚再生医療を確立し、滋賀県から国内外に展開

【提案先】内閣官房、内閣府、厚生労働省、文部科学省、経済産業省

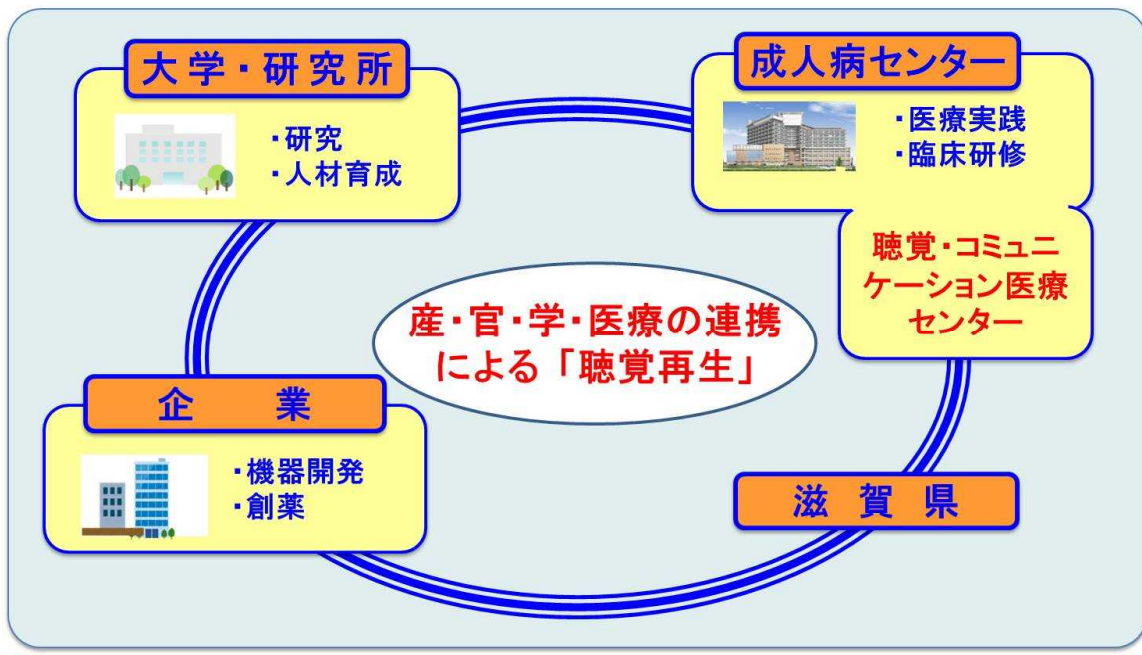
1. 提案内容

聴覚・コミュニケーション医療の確立

- 世界的に未着手のため注目される「聴覚再生医療」を我が国が先導
- 高度難聴児の聴覚の獲得・再生と高齢者の健康的な生活に不可欠な聴力の回復を目指す
- 「新技術、医療、研究所、リハビリ、人材育成等」の必要とする要素を備える滋賀県守山地区に「聴覚・コミュニケーション医療センター」を整備
- 現場ニーズ、聴覚障害者のQOL向上等に応える新規聴覚支援機器の研究開発の推進
- 聴覚再生医療の確立、実践、国際的システム構築を、病・産・学・官の連携で展開

2. 提案の理由

- 聴覚障害を的確に検査する方法（画像診断機器）がない。（CT・MRIでは対応不可）
- 高度難聴に対する治療は人工内耳に限定されている。
- 生来の高度難聴児、今後とも増加する難聴高齢者の対策は、医学的、経済的、国際的視点から緊急かつ重要課題である。
- 滋賀県守山地区は、この課題に対して先導的展開を可能とする必須要素を概ね備え、これ迄の実績から具体的成果が確実に見込まれる。
- 滋賀県には、医学・理工系大学や全国有数の製造業企業の集積を活かした医工連携の取組の実績および地域活性化総合特区の推進基盤がある。



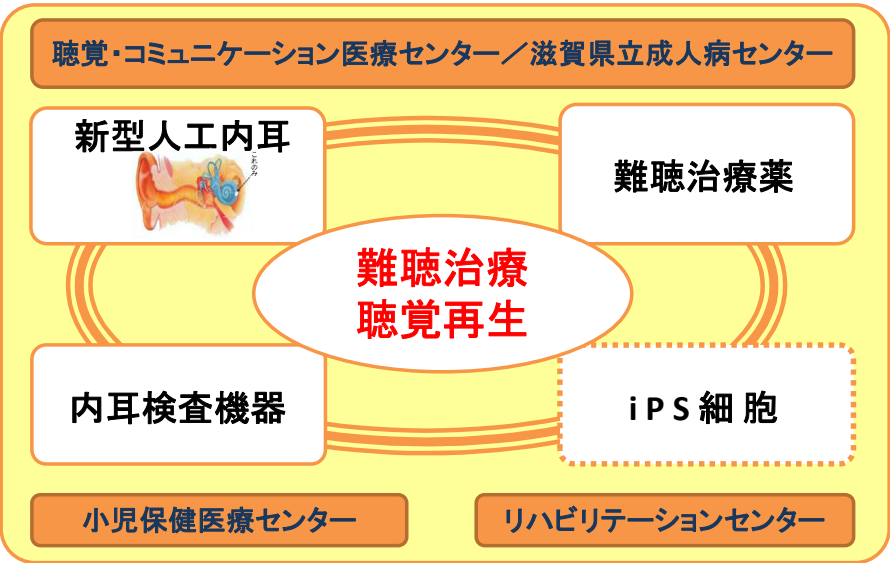
聴覚・コミュニケーション医療センターの取り組み

現在

高齢者 難聴児

将来

音楽と会話を国内外の人へ



人材育成センター
(国内外の医療者対象)

滞在施設
(国内外患者・家族)

大学
研究機関

地域活性化総合特区 地域の“ものづくり力”を活かした「滋賀健康創生」特区



《概要》
医療・健康管理機器の開発・事業化と健康支援サービスの提供という新たな地域モデルの構築を通して、地域住民の健康づくり等への取組を促進し、地域経済の持続的発展と、県民がいいききと健康に暮らす社会の実現を目指す。



しが医工連携ものづくりネットワーク
(2014.9 現在・145 社)

〈特区の区域〉
・大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市の全域
・長浜バイオ大学、滋賀県立大学、滋賀県東北部工業技術センターの所在地